

キュウリ(ウリ科)



キュウリは実がつきだすとたくさん収穫できる野菜よ。
でも、つるの芽を切っていく「摘心(てきしん)」や、支柱の
他につるをまきつけておくネットを張ったりと作業がたくさん
あるわ。
むずかしくはないのでがんばってみて。



▼栽培手順



1 苗ポットに発芽用の土を入れ、しめさせます。
種を2、3粒ずつまき、軽く土をかぶせてます。
きりふきを使ってやさしく水をかけます。
新聞紙でおおい、芽がでるまで毎日、土と新聞紙をしめさせます。



2 芽が出てきたら、新聞紙をとって、太陽にたっぷりあてます。
まだ小さいので、水やりはきりふきのままです。



3 小さく弱い芽を間引き、ポットに1つの芽だけが残るようにして大きくします。





4

だいぶ成長してきました。
本葉が 4~6 枚くらい出てきたら、プランターに植えかえます。
プランターに元肥と土を入れて、しっかりしめさせます。
苗ポットからやさしく苗を取り出し、植えつけます。
苗は伸びていますが、弱く折れやすいので注意します。



5

たっぷり水をやります。
キュウリはどんどん伸びていくので、植え込みのときに支柱を立てて支えてやりましょう。
ひもを 8 の字にかけて、支柱にくくりつけていきます。



6

朝と夕方に水やりをして育てます。
乾燥を防ぐために、しきわらをします。
よく水切れになるので、自動給水器や水差しを取り付けた方がよいでしょう。



7

上に大きく伸びていきます。
子づるもたくさんできてきました。





8

このころになると、つぼみがつきはじめます。
キュウリは、おしべとめしべが別の花につきます。
花がたくさんつきはじめると、実をつけるために栄養が必要です。
週に1度、水やりのかわりに液肥を与えましょう。
固形の肥料なら、1カ月に1~2度の割合で与えましょう。



軸のようなものの先に咲くのは雌花(めばな)、茎からすぐに花が咲くのは雄花(おばな)です。



9

1m以上に背が高くなると、作業がづらくなります。
自分の手が楽に届く高さで親づるの先を切り取って、それ以上伸びないようにします。
新しく葉が出てきている部分をもぎ取りましょう。





10

中心の茎の部分から、枝分かれして伸びるのが子づるです。
この子づるも、ほっておくと伸び続けます。
葉がしげりすぎて風通しが悪くなり、病気の原因になります。
また、実がたくさんついて重くなりすぎ、途中で折れたりプランターが転んだりします。
子づるも、大きな葉が2、3枚残るくらいのところで先をもぎ取ります。



キュウリネットを利用して、子づるを支えましょう。



11

花が終わって、雌花の下がふくらみます。
ほっておくと、すぐに巨大キュウリに育ちますので、収穫の時期をのがさないようにしましょう。
長さ20cm前後、太さ3cmくらいがいいでしょう。



中には花が咲いても、実にならずに枯れるものもあります。



12

曲がったものや形の悪いものも、おいしく食べられます。
健康に育ったキュウリは、虫を寄せつけないようにイボもしっかりしています。

